

総務省実証実験 青森県野辺地町報告書

総務省「地域サービスイノベーションクラウドモデル構築事業」をMCSで実施

地域サービスイノベーションクラウドモデル構築実証事業

～「野辺地町多職種連携ネットワーク」(メディカルケアステーション)

を活用した地域医療介護連携～

<実証実験報告書>

2016年3月

青森県 野辺地町

特長1)

わずか3週間で実証実験完了

1) 実証実験準備

2) 説明会実施(2月12日)

3) 実証実験及び検証(～3月3日)

野辺地町多職種
全ユーザーグループ
(実証実験ケース③)

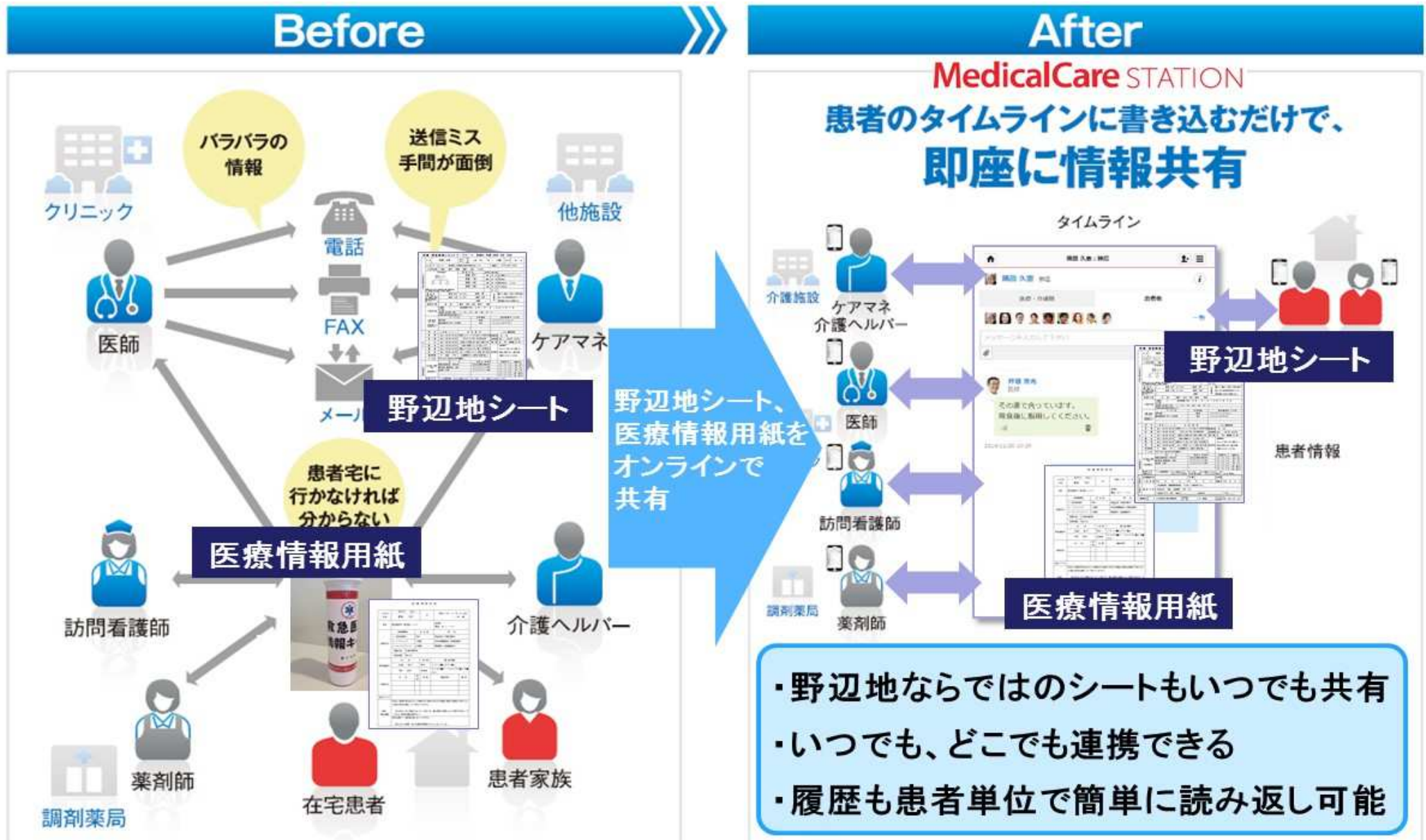
模擬患者2名の
グループ
(実証実験ケース①、②)

実際の患者18名の
グループ
(実証実験ケース④)

3週間

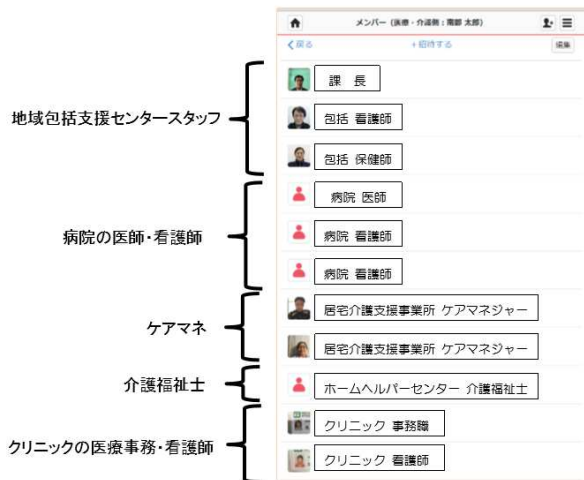
特長2)

紙 → オンラインへ



野辺地シート(医療・福祉橋渡しネットワークシート)をタイムラインにシェア

参加した多職種スタッフ(11名)



コミュニケーション件数(14日間)

- 書き込み数(合計): 13件
- 了解数(合計): 34件

《ステップ1》入院

医療・福祉橋渡しネットワークシート

医療・福祉橋渡しネットワークシート南部様.xlsx

- ① 入院したこと、現在の状況を共有 (by 病院スタッフ)
今までの患者の経緯で通院が困難な状況に関係者で共有。
- ② 緊急連絡先の確認 (by 地域包括支援センタースタッフ)
緊急連絡先について問題ないことを共有。
- ③ 「野辺地シート」(エクセルフォーマット)をMCSの患者タイムラインにシェア (by ケアマネ)
ケアマネが、シートに最新の状況を記入しシェア。

特長3) 電話 → タイムライン(画像付き)で同時にシェア

参加した多職種スタッフ(9名)



コミュニケーション件数(14日間)

- ・書き込み数(合計): 7件
- ・了解数(合計): 18件

ケース④-2 独居在宅患者(T・Kさん)

患者 T.K (公立野辺地病院)

1 訪問介護 介護福祉士
 昨日の訪問時に御本人より、セミや虫が鳴いたように耳鳴りがして15日の午後に耳鼻科受診し検査すると話されていました。結果はまだ後になると思うとのことでした。

2 通所介護 介護福祉士
 今日はいサービスを明日お休みの代わりに、利用しています。入浴後、病院からもらった薬効よ〜と話され塗擦していました。また本人からの告白で今朝食後に夜の薬を服用してきてしまった。と。看護師の判断で朝のお薬を昼食後に服用しています。太ももの写真添付します！



3 包括 保健師
 ケアマネ様 〇〇様、〇〇様にお預いです。1月からヘルパーの利用回数が1回から2回へ変更になりましたね。調理援助を取り入れ、糖尿病の状態安定を回ることを狙いとしての回数増でしたが、どのような状況でしょうか。本人の反応でもいいので、お知らせ願います。

4 通所介護 介護福祉士
 動画を撮りながら御意見を聞いてみましたが、照れくさがってきちんとした返答は撮れませんでした。でもとても満足されていて「糖尿病の事も配慮したおかず作ってもらってと思うけどどうですか?」の問いに「味付けもいいよ!」と、話していました。

患者が薬が効いたと言っている太もも

処方された薬

効率化の効果

	実施前		実施後
医師の診察結果の把握	120分 <small>(ケママネが同行訪問していたため、往復移動時間を含む)</small>		1分 <small>(閲覧するだけで、同行したのに匹敵する情報の共有が可能となり、大幅な時間の短縮につながることを期待される。)</small>
情報共有の手間 (ケース④-1の場合)	440分/8日間合計 <small>(このケースの場合、11件の書き込みを、すべて書き込んだスタッフがかかわる8名のスタッフ全員に都度電話していたとすると、電話平均5分(かけ直し含む)×11件×8名で計算)</small>		55分/8日間合計 <small>(短時間の投稿・閲覧で、情報の共有が可能となり、大幅な時間の短縮につながる。この場合、書き込み(平均1分×11件)+閲覧(平均30秒×11件×8名)で計算)</small>